

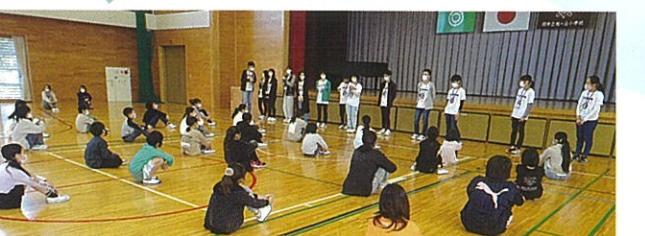
第28号

令和4年3月発行
関市子ども会育成協議会【事務局】
関市若草通2丁目1番地
関市生涯学習課内
TEL0575-23-7777わく
わく

題字：上田 清四

10/16(土)
12/11(土)
縄文土器づくり体験
塚原遺跡公園

感想対策で人数を制限する中、多くの申込みをいただきました。わくわく・プラザでの展示の様子。

11/7(日)
関ジュニアリーダーズクラブ
秋の研修会 旭ヶ丘小学校体育館

じゃんけんで負けたらチームみんなで走るレク。

令和3年度 関市子ども会に寄せて

関市子ども会育成協議会 会長 足立 雅彦

関市の子ども会育成者、役員の皆さん、令度も昨年度に引き続きコロナ禍のもとでの事業の計画を進めていただき誠にありがとうございます。また、ジュニアリーダー・シニアリーダーの皆さんも例年になりやがて子ども会活動に参加協力して頂きました。また、本来なら6月に中池自然の家にて宿泊研修として開催する予定だった「関ジュニアリーダーズクラブ春の研修会」・「関市インリーダー研修」の代替として、昨年11月に旭ヶ丘小学校体育館にて市内の小学生を交えて「関ジュニアリーダーズクラブ秋の研修会」を実施いたしました。また、昨年8月には乗鞍青少年交流の家（高山市）で行われた「東海北陸地区ジュニアリーダー研修会」に役員・ジュニアリーダーが参加しました。野外での炊飯体験では、高地で沸点が低いために半煮えのカレーライスが出来上がるという貴重な体験をいたしました。今後の関市での活動に生かしたいと思いました。

今年度、関市子ども会育成協議会の堀敦夫・永田博之の両副会長が、（公社）全国子ども会連合会から表彰を受けました。これはお一人の貢献が評価され、証だと思います。今後とも、皆さまの育成協議会へのご支援、ご協力を、よろしくお願いいたします。



地域とのつながり → 倉知地区

今年度も昨年度に引き続きコロナウイルスの影響により、子ども会の行事や運動会など学校行事の多くが延期・中止となりました。

それに伴い、子どもたちと地域の人との交流の機会が減り、地域の一員として寂しく感じました。しかし、今の私にできることとして、毎朝子どもたちの登校時にあいさつをすることで、少しでもコミュニケーションを図り、地域とのつながりが持てればと思い、活動をしてまいりました。

コロナ禍であっても、人と人とのつながりを忘れずに大切にしていきたいと思っております。マスクを外して笑顔であいさつを交わせる日が、一日も早く戻ることを願っています。

【原 可菜】



コロナ禍でのあいさつ → 田原地区

田原小学校では、密を避けながらあいさつ運動を行いました。毎年「はもみん」などが訪れていましたが、今年は密を避けるために「はもみん」たちの訪問は中止となりました。

子どもたちは、元気にあいさつしてくれる子や、恥ずかしそうにあいさつする子の姿が見られましたが、それでもたくさんの子が見てあいさつを返してくれました。これからもあいさつを大切にしみんなにあいさつができると良いと思います。

今年度こそは日常を取り戻し、たくさんの行事などが再開できることを願っていましたが、残念ながら今年度もさまざまな行事が中止となってしまいました。子どもたちの学校生活の中では常にマスクをし、楽しいはずの休み時間や給食の時間なども常に人の距離を気にしながら過ごす日々の中でも、元気に登校する姿には敬意を払います。一日でも早くこの事態が終息することを願っています。

【上村 みか】

本部役員から

全国子ども会連合会表彰受賞に際して

浅学非才な私が、全国子ども会連合会表彰を受賞できましたのは、関市子ども会育成協議会に関わられた多くの役員の皆さまのご指導の賜物であることを深く感謝申し上げます。

私が、関市子ども会育成協議会の本部役員となさせていただいたのは、平成14年度の関市PTA連合会役員就任時に、副会長として出向させていただいたのが始まりです。

副会長に就任した際、関市子ども会育成協議会の事業に関して、参加した関市内の単位子ども会の子どもたちに、ジュニアリーダーズクラブが中心となり「インリーダー研修会」「縄文土器づくり体験」などを実施し、役員や指導者は、安全に事業が遂行できるかを陰で見守り、子どもたちの自主性を重んじる姿勢が新鮮に映った記憶があります。

現在、コロナ禍において子ども会の事業も十分に実施出来ない状況であります。皆さま方と知恵を出し合い、より良い事業展開ができる事を切望しております。

最後になりましたが、子ども会が益々発展し、子どもたちが健やかに成長することを祈念いたします。

【副会長 堀 敦夫】

人とかかわると言う事

あれは私が参加した3回目くらいのインリーダー研修会での出来事。

2日目の朝に階段でジュニアリーダーの子が挨拶してくれました。私はその子のことを知らないし、たまたま「お手伝い」として参加しただけ、そして挨拶に続いて2~3の言葉を交わしました。

でもその時のその子との会話が今でも思い出されます。確かにその会話は私の心に何かを与えました。私自身が人との出会い・かかわりを楽しみにしている面を持っている中で、子どもたちに教わる事が多いと知られた出来事でした。

昨今の新型コロナウイルスで人との接触を減らしています。役員会も減り、子ども会活動も少人数化されて、多くの人が人とのかかわりを減らしています。その様な環境下でも、お互いに深くかかわり合える活動を模索していくたいと思います。

【副会長 永田 博之】

関市子ども会活動に参加して

令和3年度の子ども会育成協議会の行事は、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながらの実施となりました。

私は、活動が実施できた10・12月の「縄文土器づくり体験」や11月の「関ジュニアリーダーズクラブ秋の研修会」に参加し、子どもたちがいきいきとした表情で、有意義な体験を楽しんでいる姿を見ることができました。

同じ学年の友だちと学校生活を共にする教室の場とは異なり、子ども会は異なる学年の子を相手に様々な社会経験ができる貴重なコミュニケーションの機会だと思います。子ども会育成協議会の各活動は、学校以外でそのような場を提供できるとても大切な時間であることを改めて実感しました。

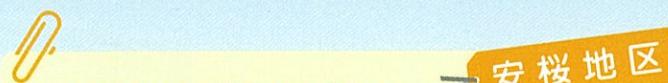
今後も、以前から行っていた行事が中止や縮小となってしまう状況が見込まれますが、子どもたちに貴重な体験の機会を少しでも多く提供し、変化に対応しながら、子ども会育成協議会全体が活発化するように協力し合いたいと思います。



全国子ども会連合会 表彰報告

今年度、堀敦夫、永田博之の両副会長が（公社）全国子ども会連合会から表彰されました。おめでとうございます。





未来の子どもたちへ 思いを繋ぐ活動を

今年度もコロナの感染者数に行事の開催を左右され、中止になった各子ども会の行事も多かったと思います。ここ数年にわたり中止になってしまふと、今後はコロナの影響がなくても「開催しないいいのでは?」という意見も出てくるかと思います。しかし子どもたちのためという点で子ども会活動を継続して頂けたらと願います。

コロナの特効薬が開発されれば、以前の様に活動ができる日が必ず来ます。感染対策をしっかりとすれば、現状でもできる子ども会活動はあるはずです。誰のための子ども会なのかを今一度考えて頂き、皆さんで話し合って頂ければと思います。

子どもたちの笑顔は嘘をつきません。将来子どもたちが親になって、子どもの頃を振り返った時、何も思い出がない親にしてしまうことは、その次の世代へも影響が出てしまうのではと心配になります。

皆さんの意識や行動で未来が変えられるということを念頭において活動をお願いいたします。【川嶋 健】

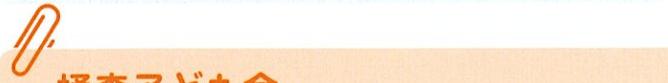


瀬戸子ども会

瀬戸子ども会は、4月は神輿つり、7月は公民館でのお泊り会、12月はクリーン活動とクリスマス会、2月はボーリング会兼お別れ会を行います。しかし、今年度も昨年度に引き続き、コロナ禍によりすべての活動が中止となっていました。

そんな中、10月に閲市子ども会育成協議会の活動で縄文土器づくり体験のお手伝いをさせて頂き、そこで子どもたちの楽しそうな姿をたくさん見ることができました。子どもたちにとって、こうした体験が楽しかった思い出として記憶に残つていくものだということを感じることができました。

今後の状況がどうなっていくのかわかりませんが、少しずつ活動が戻り、子どもたちの楽しめる場が増えしていくことを願っています。また、子どもたち自身が、今後どういったことがしてみたいのか、やれるのかを考え、一緒に作り上げていける場になるとよいのではないかと思います。【河村 大作】

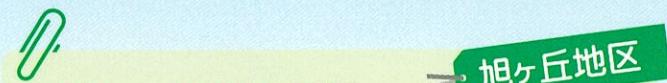


桶森子ども会

昨年度に引き続き、今年度もコロナのために4月の子ども神輿を中止することになってしまいました。しかし、何か少しでも子どもたちに楽しさを、笑顔になれる時間を、と考え役員で話し合い、神輿以外は例年通り活動できるようにしました。

感染対策の徹底と短時間での活動ということで、何とか8月の夏の交流会、12月のクリスマス会を開催することができました。そして2月には歓送迎会も予定しています。

年々子どもの人数も減つてき、現在は13名で活動しています。人数も少ないため学年の壁はまったくなく、みんながとても仲良しなのがいいところだと思います。bingoなどをやると、自然と高学年の子が低学年の子の手助けをしている姿が見られます。そんな姿を見ていると、悩みながらも開催してよかったです役員みんなで安心しました。この先もそんな姿がみられることを願っています。【澤井 正子】



チャレンジする子 → 安桜地区

旭ヶ丘地区では昨年度に続き、新型コロナウイルス感染拡大防止により各子ども会活動を中止にすることもあり、新たな行事に変えて行う子ども会もありました。

私は役員で閲市子ども会育成協議会主催の縄文土器づくり体験にサポートスタッフとして参加させて頂きました。

参加者は低学年が多く、親子で工夫を凝らした作品を作っていました。

その中で活躍していた『関ジュニアリーダーズクラブ』は、受付、準備、待ち時間のレクリエーション、片付けなど何事にも率先して行き、仲間との連携、明るいあいさつ、礼儀、そして何よりも一生懸命に参加者を楽しませようとする心が素晴らしいです。

旭ヶ丘地区の子どもたちにも関ジュニアリーダーズクラブの子のように、コロナ禍でも、興味があることや得意でないことにチャレンジ(参加・挑戦)してもらいたい、そしてそんな子たちをこれからもサポートしていくかと思ひます。

【山田 喜一】



向山子ども会 → 南ヶ丘地区

昨年度と同様、コロナ禍の中で、今年度も子どもたちが楽しみにしていた春のお祭りや夏の盆踊り大会が中止になりました。

今年度も長寿会や自治会、婦人会の皆さんのおかげで、夏休みにはラジオ体操ができました。朝には、子どもたちの元気な姿を見ることができてホッとしました。

また、今年度も長寿会の皆さんによって、子どもたちのためにおもちを作って頂きました。子どもたちには持ち帰つて食べてもらいました。

ボーリング大会は、会場のご協力のもと感染対策をしながら、高学年の子が低学年の子をやさしくアシストしながら楽しいボーリング大会ができました。

来年度はたくさんの行事ができるといいですね。また、地域の方にも協力をしてもらいながら子どもたちを守つていきたいと思います。

【乗富 季香】



武芸川地区



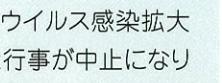
各地区子ども会役員より



今、思うこと

今年度の子ども会活動も、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの行事を中止せざるを得ないことがありました。映画鑑賞、ボーリング大会はもとより、地区老人会や婦人会に協力していただいて行っていたグラウンドゴルフ大会やカレー作りなど、地域の方々とふれあう貴重な機会も中止となったことは、子どもたちの感性の成長や地域とのつながりを考えると非常に残念です。子どもたちと道端ですれ違うと元気に挨拶してくれる、笑顔で話してくれる姿は、これまでの活動で培われてきたものだと思うからです。

現状もコロナ禍の収束が見通せない状況にありますが、子どもたちの健康と安全を第一義としながらも、この2年間の経験を踏まえ、活かして、こんな状況だからこそ子どもたちの成長を通じて地域の皆さまが明るく豊かな気持ちになれる。理想かもしれませんのが、そんな活動ができるように頑張りたいと思います。【山田 博】



上之保地区

上之保での子育て

今年度の子ども会も昨年に引き続きコロナの影響で活動ができず、子どもたちには寂しい思いをさせてしまいました。

私はもともと上之保の出身ではなく、13年ほど前に仕事の関係で名古屋からこちらに夫婦と子ども2人で引っ越してきました。

初めて来たときには、周りに猿や鹿など野生動物がいて、知り合いも全くなく、非常に心細かった思い出があります。しかし、周りの人がいろいろ気に掛けてくれ、すぐにこちらの生活にも慣れ、子どもたちや妻にも友だちができ、家族全員充実した日々を過ごすうち、当初数年で名古屋に戻る予定でいましたが、上之保で子育てがしたいと思い、1歳でこちらに来た下の子も来年は中学校を卒業することになります。

上之保は豊かな自然の中、子どもからお年寄りまで元気な人たちがたくさんいますが、過疎化が進み、子どもの数も年々減少していることは非常に心配ですが、今後も元気のある上之保の子どもたちの笑顔がずっと続くように願っています。

【兼岩 博司】



ジュニアリーダーズクラブ研修に参加して



11月に「関ジュニアリーダーズクラブ秋の研修会」が行われました。ジュニアリーダーは、中学生と高校生で構成されていて、研修会ではリーダーを中心に小学生児童とのレクリエーションが行われました。私は、リーダーたちが大人の手助けなく率先して自分の役割を考え、行動する姿に感銘を受けました。中でも新聞紙を使ったチーム対抗戦では、素晴らしいチームワークを発揮しておりましたので紹介致します。

児童たちはチームに分かれ、各チーム一枚ずつ配られた新聞紙をちぎり、一番長く並べ繋いだチームが勝利という競技で「できるだけ細くちぎった方が長さを稼げて有利だよ」「でも細すぎると端が丸ってしまうね」「じゃあ私は端の丸みを伸ばすからどんどん並べていってね」と、楽しそうに作戦を立てながら互いに協力しあって挑戦する姿は、将来のリーダーたちの姿にも見えました。私は、互いに協力しあう経験の大切さと素晴らしいを垣間見る事ができ、嬉しく思いました。【渡邊 智子】



富岡地区